

# 一般社団法人 日本災害医学会



## 概要

- 1990年代、北海道南西沖地震災害、中華航空機墜落炎上事故、阪神淡路大震災、東京地下鉄サリン事件など様々な災害が発生
- 災害時の救急医療体制、病院の脆弱性、医療通信網、患者搬送システムなど問題が浮き彫り → 問題を統一的に解決する研究会の必要性
- 1995年5月18日 日本集団災害医療研究会 発足
- 国民全体の保健・医療・福祉に寄与するため、災害時の医療に関する科学的な研究を行い、災害医学の進歩、発展に寄与することを目的
- 2000年2月 日本集団災害医学会と改称
- 2010年4月 一般社団法人に移行
- 2011年 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会（防災学術連携体の前身）参加
- 2016年 日本医学会 加盟
- 2018年4月 日本災害医学会と改称



会員数4,531名(2018年2月)

毎年学術集会を開催 これまで23回開催

# 一般社団法人 日本災害医学会



## 主な活動

- 災害時の医療に携わる医師、看護師、救急隊員ほか各職種の人や研究者、災害医療や防災業務に携わる組織などが参加
- 会員の多くがDisaster Medical Assistant Team (DMAT)のメンバー
- 災害時の救急医療体制、病院の脆弱性、医療通信網、患者搬送システム、ロジスティクスなどを学術的に検討し行政、教育機関、市民に発信
- 災害時の実働部隊
- 毎年 2月に学術集会を開催 ・ 2回学術雑誌を発行
- 日本集団災害医学会セミナー、MCLS、GBRNE、PhDLS、BHELP、テロ対策セミナーなどを全国各地で開催
- アジア太平洋災害医学会(APCDM)、世界災害医学会(WADEM)と連携し、海外の災害医療関係者とアカデミックな交流、情報発信を実施
- 社会医学系専門医協会 構成学会: 指導医・専門医を養成
- 熊本地震に学会からロジスティクスを専門とした『災害医療コーディネーターサポートチーム』を編成し派遣



実働部隊と連携した学会  
人的支援を中心に実施



災害医学  
卒後教育 教育体制の強化

## 防災学術連携体

Japan Academic Network for Disaster Reduction



2015年より学術集会において、防災学術連携体との共同セッションを開催

### 2015年 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会 立川

- 放射線災害を考える～フクシマを教訓に～
- 災害拠点病院とまちづくり
- 首都直下・南海トラフにどう備えるか ～人的被害を減らすために～  
日本原子力学会、日本地震学会、廃棄物資源循環学会、日本都市計画学会、日本建築学会、地域安全学会、日本火災学会、活断層学会、土木学会、地盤工学会、日本自然災害学会、日本集団災害医学会



### 2016年 第21回日本集団災害医学会総会・学術集会 山形

- 災害リスクの減少 Disaster Risk Reduction (DRR) への取り組み～豪雨・風水害を例に挙げて～  
土木学会、日本気象学会、日本地盤工学会、日本応用地質学会、日本自治体危機管理学会

### 2017年 第22回日本集団災害医学会総会・学術集会 名古屋

- 豪雨災害からの避難とその判断  
日本自然災害学会、日本自治体危機管理学会、地域安全学会、日本気象学会

### 2018年 第23回日本集団災害医学会総会・学術集会 横浜

- 災害時に知るべきリスク、伝えるべきリスク  
土木学会、建築学会、日本火災学会

